『福祉の哲学』（仮）

（趣旨）

●経済成長 or パイの拡大の時代が終焉しつつある現在、「分配」の原理を律する福祉の哲学が求められている。（平等、公正の意味など）

●同時に物質的な豊かさが飽和する中で、人々の関心は「幸福」をめぐる問いや内的・精神的な充足に向かっており、根源的な意味での「福祉」（Well-being）の意味やそのありようが問われている。

●こうしたテーマの中には、これまで日本において十分に論じられてこなかった「福祉と宗教」の深い関わりという主題も含まれる。

●一方、このような関心は、ソーシャル・ビジネスや社会起業家など、福祉の担い手やその価値原理をめぐる議論ともつながる。（たとえば渋沢栄一の『論語と算盤』（＝倫理・福祉と経済の関係）など）

●さらに福祉の原理を問うていくと、そもそも「個人」とは何か、個と個の「関係性」をどうとらえるかといった話題はもちろん、個人の土台にある「コミュニティ」のさらに根底にある、「自然」や「生命」の次元にまで遡行していくことになり、それは科学思想や生命論などを含めた文理融合的なアプローチを要請することになる。（加えて、歴史的な視点や比較文明・比較思想的な視点の重要性。）

●以上のような関心をベースに、福祉の哲学について多面的な角度から思考を展開するのが本書の趣旨。

１．なぜいま「福祉の哲学」か　　広井良典（千葉大学教授）

２．福祉と公共哲学　　小林正弥（千葉大学教授）

・リベラリズムやコミュニタリアニズムとの関係など

３．福祉と宗教　　稲垣久和（東京基督教大学教授）

４．福祉と生命　　松葉ひろ美（千葉大学特別研究員）

（＆日本の福祉思想）

『福祉の哲学』　１章「なぜいま「福祉の哲学」か（仮）」メモ　　広井

●イントロダクション

・アメリカの「gate city」など、「福祉」の意味を考えさせるような具体的なケースを入れる

●「福祉」の意味

１）最広義・・・幸福、安寧　　ex.“人類の福祉の向上”

２）広義・・・ほぼ社会保障と同義　　ex.“福祉国家”

３）狭義・・・社会保障の一分野としての社会福祉　　ex.高齢者福祉、児童福祉等

→本書では「福祉」の意味をできる限り幅広くとらえる。なお２）は「分配の公正」をめぐるテーマとも深く関わり、３）は「ケア」というテーマとも深く関わる。

●基本的な概念枠組み

１）公助（政府）―共助（コミュニティ）―自助（市場）

・以上は「社会民主主義－保守主義－自由主義」や、「リベラリズム－コミュニタリアニズム－リバタリアニズム」とも関連。

・３者のダイナミックな展開とクロス・オーバー

２）ローカル－ナショナル－グローバル（空間軸）

**（参考）「公－共－私」とローカル－ナショナル－グローバルをめぐる構造**

| | 地域<br>（ローカル） | 国家<br>（ナショナル） | 地球<br>（グローバル） |
|---|---|---|---|
| 「共」の原理<br>（互酬性）<br>～コミュニティ | 地域コミュニティ | 国家というコミュニティ（“大きな共同体”としての国家） | 「地球共同体」ないし“グローバル・ビレッジ” |
| 「公」の原理<br>（再分配）<br>～政府 | 地方政府 | 中央政府（“公共性の担い手”としての国家） | 世界政府<br>cf.地球レベルの福祉国家 |
| 「私」の原理<br>（交換）<br>～市場 | 地域経済 | 国内市場ないし「国民経済 national economy」 | 世界市場 |

（注）

第１ステップ：　　・・・（近代的モデルにおける）本来の主要要素

第２ステップ：　　・・・現実の主要要素＝国家（～ナショナリズム）←産業化

第３ステップ：　世界市場への収斂とその支配　←金融化・情報化
今後：　各レベルにおける「公－共－私」の総合化　＆ローカルからの出発
←定常化（ないしポスト金融化・情報化）

●「国家」をめぐって

・「国家」の二つの意味
　１）大きな共同体としての国家（→パターなリズム的な国家）
　２）公共性の担い手（の一つ）としての国家
・日本においては１）が強（→1000 兆円を超える借金）。
　福祉国家の構築においては２）の国家観が重要。

●「福祉」をめぐる“二極化”

・現代の日本社会においては、一方で（「幸福」「存在欲求」など）福祉をめぐる高次の欲求が広まりつつあるが、他方では、（格差や貧困の拡大の中で）基本的な生存そのものが脅かされるという状況が浸透しており、ある種の“二極化”が生じている。
・しかし以上の両者は、実は現在の日本社会における同一の構造から派生している二つの局面でもあるのではないか。
→解決の方向は？

●対応のあり方

１）理念的・哲学的なレベル
　・新たな価値原理の構想
　　・・・「地球倫理」など　（要吟味）

２）社会システムのレベル
　・「緑の福祉国家／持続可能な福祉社会」の構想
　　・・・ローカルなコミュニティにおける経済循環（＝コミュニティ経済）から出発しつつ（含社会的包摂）、ナショナル・グローバルなレベルへと、重層的な再分配を積み上げていく。
　　「環境と福祉（ないし環境・福祉・経済）」の統合という視点の重要性。

３）実践的レベル
　・ソーシャルビジネス、コミュニティ経済関係など